練馬区

文化財あんない

金乗院山門

栗原遺跡の竪穴住居跡

旧内田家住宅

服部半蔵奉納の仁王像

牧野記念庭園(牧野富太郎宅跡)

1 区 江古田の富士塚
千川堤橋概観
J-5 小竹町1-59 浅間神社

◆富士塚は江戸時代後期に小竹元蔵(「下練馬村・中新井村・中村・上板橋村の各講の連合)によって築かれました。円墳状で高さ約8m、直径約30mです。通称「江古田富士」といいます。郡内の富士塚の中でも最候の大きいものです。頂部信仰を伝えます。7月1日には開きが行われています。

◆橋概観は大正4年(1915)11月に行われた大正天皇即位の大礼を奉祝して、千川上水沿に桜と概を植樹した事績を記した碑です。植概後、千川上水沿は「新小金井の桜」と称される桜の名所となりました。元は江古田駅南口交差点付近の千川上水沿いにありました。

2 区 青柳家住宅主屋
J-5 羽沢1丁目

昭和3年(1928)に建築された木造の平屋建て、寄棟造でスベリン瓦の葺かれた住宅です。設計はアメリカの建築家フランク・ロイド・ライトの弟子と伝えられる金沢貞吉です。昭和初期の邸武造園江古田駅周辺の宅地であり、私鉄沿線住宅建概の一事例です。(見学は時上からのみ)

3 千川上水調査アルバム
武蔵学園大調査
武蔵大学3号館
J-5 豊玉上1-26 武蔵大学

◆アルバムは昭和13~16年(1938~41)に旧制武蔵高等学校交友会文化学部が調査した千川上水の写真等の記録です。玉川上水分水口(武蔵野市境概付近)から豊島区の千川上水公園までの本流や落合分水流域など、200カット余りの白黒写真が4冊のアルバムに収められています。上水の多くが暗渠とされた現在、当時の様子を伝える貴重なものです。

◆大講堂は昭和3年(1928)旧制武蔵高等学校の講堂として、設計は日本の代表的な校建築家であった佐藤功一、施工は清水組(現在の清水建設株式会社)により建築されました。鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造の2階建。外観は、半円アーチの使用や外壁のスクラッチタイルなどのゴシック様式の意匠がみられ、昭和初期に流行した時代の特概をよくあらわしています。

◆3号館は大正12年(1923)旧制武蔵高等学校の校舎として、清水組の設計・施工により建築されました。鉄筋コンクリート造の3階建て時計のある塔屋を中心にほぼ対称の形をしています。概概を強調した柱形や、窓上の三角形の装飾等にアール・デコの特徴がみられます。区内に残る鉄筋コンクリート造の近代建築として概も古いものです。

※見学については学校へお問い合わせください。電話03-5984-3712

4 区 氷川神社の旧拝殿、氷川神社の力石
I-6 豊玉南2-15 氷川神社

◆旧拝殿は、入母屋造で銅板葺きです。江戸時代後期のものと、昭和3年(1928)に現在地に恒生屋(建物を解体せず移転)し、改造して神楽殿としました。現在は絵馬堂として使われ、繊絨と呼ばれています。

◆力石は、参道脇に8個保存されています。若者の力試しに用いられました。村名と共に重さが刻まれ、特に55貫(約206kg)の力石は、区内では大きな部類のものです。

5 区 林稲荷神社の廣申塔
J-5 豊玉北1-7 林稲荷神社

寛文3年(1663)10月に建立された石造の角柱型庚申塔です。台石を除く高さは97cm、幅32cm、奥行28cmです。正面中央に「奉造立庚申兵衛猿顔成就処」の概刻、下部には、手の指などと下に手に彫られた三猿、両側面には雄が一対ずつ浮彫のされています。区内の庚申塔の中でさい概観で、江戸時代初期の角柱型の典型を示しています。区画整理により現在地に移転しました。

6 区 南蔵院鐘楼門
H-6 中村1-15 南蔵院

高さが約10m、三間一戸、入母屋造、桟瓦葺きの楼門形式で、凍彩されています。下間両側には脇侍一対の仁王像を安置し、上間は吹き放しで梵鐘を吊るしています。建築年代は不明ですが、様式から江戸時代中期のものと推定されます。

7 区 石幢七面六観音勢至道しるべ
H-5 中村3-11 良仲塚

元文5年(1740)銘のある高さ256cmの七面の石幢です。真言系の六観音(聖観・十一面・馬頭・千手・如・如意輪)と勢至菩薩が彫られ、台石は奥面向立の道概になっています。もとは現在地より数十m東にあったといわれています。

8 区 中村南遺跡第2地点5号住居址出土土器
H-6 中村南1-2 中村南スポーツ交流センター

平成16年(2004)に中村南スポーツ交流センター建設の際の発掘調査で、5号住居址から出土した縄文時代中期中葉の土器です。区内でも珍しい台付深鉢形土器と、ほぼ完全な形でのこる浅鉢形、鉢形、深鉢形の土器です。

※休館日:第2月曜日(祝休日のときは開館し、その翌平日が休館)、12月29日~1月3日

9 区 八幡神社の水盤
H-6 中村南3-2 八幡神社

文政13年(1830)11月に氏子中が奉納した石造の水盤です。正面に「奉納」と概刻され、向かって右側に「施主願人」、左側に「文政十三庚寅年十一月十五日」と概刻されています。底には中央に水抜き穴があり、概面を囲んで敷え子たちが建立したものです。日傭については未詳ですが、概面間の場所で家族を開いていたと伝えられています。

10 区 練馬白山神社の大ケヤキ
H-5 練馬4-2 白山神社

概齢約900年と推定される全国でも有数の巨木です。永保3年(1083)源義家が後三年の役で奥州へ向かう際、この社に概勝を祈願して奉納したものと伝えられています。平成27年(2015)まで、開設上にもケヤキがありましたが、概幹の空洞化などにより衰弱し大風で折損したため、撤去されました。

11 区 小野篁山墓および墓誌
区 池永道雲墓
H-4 練馬4-27 「十一ヶ寺」墓地

◆小野篁山(1729~1810)は、江戸時代中期の本草学者です。もとは浅草の曹源寺塔頭の智現院にありましたが、関東大震災に遭い、昭和2年(1927)から空手と共に現在地に概立移転しました。墓石には医学者森枳斎(1753)撰による篁山の事績が刻まれ、新墓誌設上に用いられていた墓石の基(1対)には、墓山の弟子能刻による墓誌が刻まれています。

※墓誌については、劣化を避けるために、現在、石神井公園ふるさと文化館で保管しています。

◆池永道雲(1674~1737)は、江戸時代中期の江戸の書家・篆刻家です。もとは篆額にありましたが、昭和2年(1927)から塔頭の受用院と共に概次現在地に移転しました。墓石正面に「蒲邦道雲居士」(概名)、「(概忌香香大姉)」(後妻の概名)、背面に没年が刻まれています。

12 子ノ聖観世音碑
G-4 貫井5-7 円光院

文化7年(1810)に地元の商人講中によって建てられたものです。高さ175cm、幅37.5cm、奥行20cmの角柱型概石です。かつてこの付近に「子ノ聖観音」を祀る概現社があり、昭和に入って本尊が円光院へ移されました。

13 貫井の東高野山道標
G-4 貫井5-17

清戸道から東高野山(概称寺(高野台3-10)方面へ分岐する地点に立つ道概2基です。いずれも嘱政11年(1799)に建立されており、1基は長命寺と道概についての雑談を演文で刻む珍しいもので、文化12年(1815)に村尾正靖が著した『雑随紀行』でも紹介されています。

※休館日:第2月曜日(祝休日のときは開館し、その翌平日が休館)、12月29日~1月3日

14 区 関東大震災犠牲者慰霊碑
J-3 錦1-19 円明院

大正12年(1923)9月の関東大震災で墳牛になった工場従業員9人を中ろため、翌13年8月に工場の従業員一同が建立した概です。概高105cm、概62cm、正面中央から下部にかけて前代目が刻まれ、修復が施されています。正面に「大震災犠牲者弔魂碑」と刻まれています。

15 区 金乗院の一石六地蔵
金乗院山門
金乗院の大イチョウ
J-2 錦2-4 金乗院

◆概建は、延宝3年(1675)に概名伊予守盛房の前概によって概作されました。概高164.4cm、口径85.8cmの銅製で、鐘概に掛けられています。

◆山門は、一間一戸、四脚門、切妻造、銅板葺きで、天井は格天井です。「扁額(概門)」も存在し、江戸時代に三代将軍の徳川家光が書写で古概にならったと伝えられています。現在の門は文政10年(1827)の建概で、概門は昭和28年(1953)に修復されています。全体的に重厚で、細部装飾や彫刻に江戸時代後期の特徴を示しています。

◆板碑は永享8年(1436)に夜念仏供養に開かり造立されました。緑泥片岩製で、高さ126cmです。上下二つに折れていますが、その他に欠損部分はほとんど必ずありません。国内に残る夜念仏板碑のなかで最古の紀年銘が記されています。

※見学は受付でお申し出ください。

16 区 栗原遺跡の竪穴住居跡
J-3 氷川台1-7 都立城北中央公園

昭和30~31年(1955~56)の発掘調査で、弥生時代、奈良・平安時代の住居跡が発見されました。昭和31年に奈良時代の住居1軒の上屋を復元しましたが、傷んできたので、平成23年(2011)に柴などの古材を活かし新材で補い修復しました。もう1軒は整穴住居跡が埋地で残されています。都の華やかさに比べ、地方の庶民生活の様子が偲ばれます。

17 光伝寺のコウヤマキ
J-3 氷川台3-24 光傳寺

区内最大のコウヤマキです。概幹が真直ぐに伸び、この種の樹形の典型である約樹状をなしています。推定概齢は数百年で、概幹は衰えていません。本堂の脇に成育しています。

18 東本村の廣申塔
J-3 平和台1-4

貞享2年(1685)9月に、下練馬村本村の廣申講10人によって造立された廣申塔です。総高143.3cm、概幅48.3cm、奥行32.5cmの石製(玄武岩)で、青面金剛像の上部中央に青面金剛の種子、左右に日月が、像の前かつて左側に造立年月と当所の地名、右側に造立趣旨が陰刻されています。三猿の下部には、造立者10名の氏名と概の図が陰刻されています。

19 僧形馬頭観音
H-3 羊宮2-26 本寿院

文政6年(1823)6月に三河屋安次郎が施主として建てた馬頭観音像です。舟形光背をもつ概高72cm、高さ44cmの石造物です。馬が信仰を集めて座していた像は区内唯一のものです。

20 開進第一小学校のクスノキ
I-3 早宮2-1 開進第一小学校

正門脇に生育する概指定概齢約100年のクスノキです。主幹は地表2m<5いのところで切断された跡があり、そこから二又になっています。しかし、先端はよく分社し、大木で典型的なクスノキの樹冠をしています。

21 区 内田家の屋敷林
H-4 早宮3丁目

この屋敷林は石神井川を南に望む高台にあり、ケヤキ、シラカシ、ムクノキなど高さ20m以上の概木が約300本あります。屋敷林は防風・日陰とともに、雑木林は農用材としても活用されました。(見学は路上からのみ)

22 区 練馬東小学校のフジ
H-3 春日町1-30 練馬東小学校

校庭の南西の隅にあります。概元近くの最大径が約1mという大木で、5月の花序には藤紫色の長い花房を見事につけます。もとは北町の藍屋にありましたが、板概区成増の並木家、さらに矢月屋(概和3丁目)に移されていたものです。昭和58年(1983)の学校創立にあたり記念概として、地元の人々が移概しました。(路上から見学可)

23 区 河野鎮平墓子碑
H-4 春日町3-32 寿福寺

寿福寺付近で家塾を開いていた河野鎮平(天保6年・1835没)を偲んで、明治期に教え子たちが建立した筆子碑です。角柱型で概高1.6mの石造です。正面に「賢堂学舗信士、左側面に「江府小川町廣河野鎮平墓塾 天保六年三月三日逝」、裏面には上田桐、神崎谷戸、八丁堀、中之宮、海老谷戸など近在の発起人16名、台石には筆子95名の氏名がそれぞれ陰刻されています。

24 区 愛染院の梵鐘
G-3 春日町4-17 愛染院

元禄14年(1701)に木村将監安綱により造られたことが刻まれる、区内では古い梵鐘です。概高134cm、口径77cm、上部の周囲に乳状の突起、下部には蓮華文様、蓮華座と光明真言などの肖概が鋳出されています。

25 区 尾崎遺跡出土品、区 尾崎遺跡
G-4 春日町5-12 春日小学校

学校建設にあたり、昭和54~55年(1979~80)に発掘調査を行い、旧石器~中・近世の各時代の遺跡が発見されました。調査は体育館部分で実施し、校庭部分は盛土を乳して住居跡等を保存しています。「尾崎遺跡」は昭和58年(1983)東京都の史跡に指定されました。なお、校内の資料展示室には数多くの出土品が展示されており、珍しいものには縄文時代早期の尖底土器や平安時代の火きり臼(火起こし概)があります。

※見学については事前に学校に電話予約してください。 電話 03-3926-7102

26 区 圓滓法師塚
G-4 春日町5-35

古い道の辻の盆状のない土地に築かれた、径約10m、高さ約1.5mの円墳状の墓で、通称「耳塚」です。頂上に祠があり、内には板石の碑が建っています。石碑は明治44年(1911)4月に8名の発起人によって建てられたもので、正面に「圓滓法師位」と概刻されます。

27 区 八幡神社の石造大塔本動明王像
G-4 高松1-16 八幡神社

概高212cmの石造で、角柱型の概の上に不動明王像が彫っています。像は高さ47cm、両肉彫りで、頭概を開き、左手に羂索、右手に宝剣(剣先欠損)を持ち、火焔光背がみられ、概の正面には「石塔供養大以大聖不動明王」と刻まれています。

28 区 松の板碑型廣申塔
G-4 高松1-22

寛文3年(1663)11月に建てられた石造の板碑型廣申塔です。概は43cm、台石を除く高さは112cmです。正面上部には梵字、背面は聖観音を乳した舟形状で、正面中央に三猿の浮彫りがあります。もとは現在地の北側約50mの辻に建てられていました。

29 区 宮田橋散石供養塔、高松の廣申塔
G-4 高松2-3地先

道案概之西約100mの十字路角にあります。

◆散石供養塔は、文化4年(1807)の村近の溝戸道に散石を並べて交通の便を図ったことを記念して建立されました。縁馬の村々が公内にも、保谷・向山・石神・栗原・富士・根山・小山・溝戸・岩淵・秋津・安松などの地名が刻まれており、江戸時代に溝戸道に沿って広範囲にわたる村々が関わり合っていたことを示す貴重なものです。

◆廣申塔は、正徳5年(1715)に上練馬高松村の人々26名によって建立されました。方形笠付型で、高さ180cmもある見事なものです。正面に「青面金剛 三猿・鶏・蘭盆の猫・日月が刻まれています。

30 区 服部半蔵奉納の仁王像
G-4 高松3-19 観音禅社

高さ2.8mの2体で、高さ約1mの石造丸彫立像です。阿形像の後背に「宝永三年(1706)十二月日 大檀兵 服部半蔵(服部幸雄)の銘があり、江戸時代に概戸地区を総地された伊賀衆との関係がうかがえます。もとは150m ほど北の高松寺にありましたが、明治初年に廃寺となったため現在地に移されたと伝えられています。

31 区 下練馬の大山道道標
J-2 北町1-25地先

宝暦3年(1753)8月に下練馬村講中によって建てられた、高さ約1.5mの石造物です。正面に「従是大山道」と概主名が刻まれ、向かって右側面には、左側面には「小山道 田なへニ里 府中江五里」の文字が刻まれています。上部の不動明王座像は後に制作されたものと考えられます。

32 区 千川家の墓、阿弥陀堂の半鐘
I-2 北町2-18 阿弥陀堂

◆千川家の墓は墓地内にあり、3代遺蔵(明和4年没)・4代善蔵(天保5年没)・5代仙輔(天保8年没)・6代民蔵(天保11年没)・7代さく保(明治27年没)などの墓石が建ち並びます。千川上水の開さく・管理に関わった千川家は天保8年(1696)初代徳兵衛の時に、上水開さくの功により名字帯刀が許され、3代遺蔵の時、下練馬村(現在の北町2丁目)に居を構えました。

◆半鐘は銅製で天保14年(1843)江戸の鋳物師初川市正によって制作されました。高さは59cm、口概33.5cmで、かつて金剛二丁目にあり農寺となった「清性寺」が所有していたことや旧下練馬村の人々の名などが刻まれ、地域の歴史を伝えます。

33 区 北町聖観音座像
北町の仁王像
I-2 北町2-38 北町観音堂

◆北町聖観音座像は高さ107cm、概高270cmの丸彫座像で、区内に残る最大の石仏です。天和2年(1682)の銘があります。もとの台座名は刻銘していますが、野火掘、大和田、大井、河越などの再概文字から、広範囲にわたる地域の人々から信仰されていたと考えられます。

◆仁王像の二体は、北町聖観音座像のあとに作られ、高さ約115cm、奈良118cmで、天和3年(1683)造立の銘がある区内では古い石造物です。

34 区 下練馬の富士塚
I-2 北町2-41 浅間神社

下練馬上宿、中宿の入百講により江戸時代に築かれたと考えられる富士概です。高さ約5m、径約15mで、明治5年(1872)と昭和2年(1927)に修復工事をしています。現在も町会の有志により、7月1日には開きが行われています。

35 区 氷川神社富士塚
H-2 北町8-22 氷川神社

鳥居脇に入百講によって築かれた富士塚で、北側基部から高さが約3.7m、径約15mです。築造の時期は不明ですが、配置される石造物から江戸時代の可能性があります。現在、開山消滅し、行事は行われていません。

36 区 田柄用水記念碑
H-2 田柄4-27 天祖神社

明治26年(1893)に建てられた玉川上水分水記念の碑です。碑の正面下部に分水工事の経緯が記され、台座には水路概代、発起世話人などの氏名が陰刻されています。もとは分水路に沿った天祖神社の東側にあったといわれています。

37 区 相原家薬医門
G-3 田柄5丁目

◆門一戸、切妻造瓦葺き、茅葺きで、当初は木部全体に概汰が塗られていました。屋根裏から発見された棟札には、万延元年(1860)に再建したとか、祈願者として陸奥国盛岡(南部)藩士の百概隊之頭の名が記されます。通称「南部の赤門」と呼ばれています。平成15年に茅の葺き替えを行いました。(見学は路上からのみ)

38 区 丸彫聖観音立像廻国供養塔
F-1 旭町2-28 上練馬公園

享保13年(1728)、六十六カ所の霊場を回る納経が概事概わったことを記念して建てたものです。高さ73cmの丸彫聖観音像が台石に概って立ちます。台石には「奉廻国六十六部供養」の文字と造立者の氏名が陰刻されています。昭和18年(1943)まで光が丘地区にありました。

39 区 旧見留家納屋
E-2 土支田3-34 土支田農業公園

かつて大泉町で農家の納屋として使われていた建物です。平成5年(1993)に土支田農業公園に移築、復元しました。桁行8.17m、概概4.54m、木造、平屋、寄棟造、銅板葺き(元は藁葺き)です。屋根の構造や柱の太さが不揃いであることなどから判断して、江戸時代末から明治期に建てられたものと考えられます。

※休館日:火曜日(祝日のときは開館し、その翌平日が休館)、12月29日~1月3日

40 区 土支田八幡宮の社殿
E-2 土支田4-28 土支田八幡宮

土支田八幡宮の周囲に概植されたスギやヒノキを中心に、イチョウ・アオキ・ヒサカキなどからなる社叢です。区内では比較的広く、樹齢の若いスギやヒノキが多くなどが特色です。

41 区 御嶽講奉納の水盤
F-5 富士見台3-42 稲荷神社

明治7年(1874)6月に御嶽大伝を先達、関口喜八・篠田政次郎を世話人として、上練馬村の一部である三丁目(三軒目)・八丁堀・鎌久保・大門山(大門山)の木曽御嶽の一員となられる講主16名により奉納された水盤です。高さ47cm、幅93cm、奥行46cmで、正面に「奉納」の文字と木曽御嶽神社の神紋が刻まれています。

42 区 谷原の廣申塔
F-4 富士見台4-36

宝永6年(1709)10月に長命寺の頭領観照院(19世紀初めまでに廣寺)を開主に谷原村の廣申講組衆22人によって建てられた石造の廣申塔です。屋根型の笠が付いた角柱型で、概高は150cmです。正面には岩座の上の張鬼を踏む青面金剛立像、向かって左側面には降魔剣和立像、右側面には地蔵菩薩立像が浮彫りされています。

43 区 富永長屋門
E-5 南田中4丁目

江戸時代末期の建築と推定される旧田中村の名主役宅門です。桁行は13.5m、梁間は3.6mです。門の入口は脇戸両方の概戸、脇間と概には縁が戸が付いています。外壁は土部がしっくい、下部が板切り、軒裏は三方斜造(軒を大きく出し柱から腕木を突き出して桁をのせる造)となっています。門の両側に部屋がある長屋門です。屋概は、四方に応を葺きおろして一つの屋概とした入母屋造で、大正13年(1924)の火災により屋概は茅ぶから鉄概に葺き替えられています。(見学は路上からのみ)

44 区 観蔵院の菓子碑
E-5 南田中4-15 観蔵院

総高82cm、概高54cmの石造の筆子碑です。正面に「奉願益立像が浮彫りされ、向かって右側に「権大僧都法印日尊 施主筆子中」、左側に「宝暦十二(1762)年壬午一月十五日」と概刻されています。日傭が没した際、師を偲んで敷え子たちが建立したものです。日傭については未詳ですが、観蔵院の場所で家塾を開いていたと伝えられています。

45 区 長命寺の梵鐘、区 長命寺仁王門、区 東高野山奥之院
E-4 高野台3-10 長命寺

◆梵鐘は慶安3年(1650)矢穴次郎右衛門吉重により制作されたものです。概高は115cm、口径は63.2cmの銅製で、龍頭は概に形状等も江戸時代初期の特色を示しており、区内ではふい概鐘の梵鐘です。

◆仁王門は一間一戸、入母屋造、銅板葺き。建築当初は土台がなく、地面、茅葺きで葺が付いています。紅柄塗り木、竪三ツ心の組物、蟇股の装飾が概されています。17世紀後半の建築様式をよく伝えており、区内現存の建造物では古い部類です。

◆東高野山奥之院は境内北西部にある霊場概です。慶安5年(1652)の石塔建立を初めとして、紀州高野山を概して完成させました。領域には石仏等が並び、入口には概概が力かっています。

46 谷原延命地蔵
F-4 谷原1-17

安永4年(1775)に谷原村の念仏講中20人によって建てられた地蔵菩薩立像です。高さは180cm、石造の像概造に載り、珠杖を持つ丸彫円頂立姿で、上部は放つ光と概円造の分線する器物に立っています。角柱型の台石には、向かって右側面に「みぎ はしど道」、左側面に「左 たむし道 大山道 二里」の陰刻があり、道しるべも兼ねています。

47 区 増島家薬医門
F-3 谷原3丁目

一間一戸、切妻造りの薬医門で、江戸時代末期の建概と伝えられます。概柱や冠木(装飾の部品)は建築当初の様相を示しますが、冠木や腐木などは明治期と考えられる部材が多く使われています。増島家は長命寺を開いた増島重明を祖とする家で、谷原地域の開発に関わりました。(見学は路上からのみ)

48 区 三原台の馬頭観音
E-3 三原台2-6

寛政10年(1798)に二つの講が江戸小日向(現文京区)の石工勤助に依頼して建立した馬頭観音塔です。概高は209cm、概身の高さは165cmで高さは区内最大、正面の上部には馬頭観音像が浮彫りされています。

49 区 石神井火罹地之碑
E-4 石神井町3-23

大正4年(1915)の武蔵野鉄道石神井駅(現西武池袋線の石神井公園駅)開業を記念した、大正9年5月に造立された石碑で、概高351.5cmです。銘文には、近くにある石神井城・三宝寺池・長命寺などの歴史や見所を記し、鉄道完成による利便や窺びを記念しています。また、背面には、石碑造立を発者などの氏名を刻んでいます。

50 区 旧内田家住宅、池淵道跡
D-5 石神井町5-13 池淵史跡公園

◆区内田家住宅は、桁行8.5間(15.51m)、梁間5.5間(10.03m)の概形四間関取の主体部とその北西部に梁間5.5間(6.39m)、桁行2.5間(4.32m)の外屋からなる寄概造、茅葺き、平入りの民家建築です。小規概ではありながら文書の年記や伝聞、建築当初からの特徴を用なながら明治20年代初頭の建築と推定されます。もとは中村3丁目にありましたが、平成22年(2010)現在地に移築されました。

※石神井公園ふるさと文化館の休館日(毎週月曜日(祝日のときは開館し、その翌平日が休館)、12月29日~1月3日)は公開していません。

◆池淵道跡は、高保年石神川、北概5二三宝寺池の谷にはさまれた標高約46mの台地上にあります。昭和47~48年(1972~73)に発掘調査され、旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代・中世の遺跡が発見されました。調査完了後、埋め戻して「区立池淵史跡公園」として保存され、地図に遺構の位置が表示されています。

51 区 石幢六面六地蔵
区 縁部墓誌
E-5 石神井町5-19 禅定院

◆石幢六面六地蔵は、享保元年(1716)10月に下石神井村の講中が建てた石造物です。概高80cm、笠付き六角柱の各面に地蔵が一体ずつ浮彫りされ、スタイルや持物はそれぞれ異なります。笠は宝珠・請・傘・蕨柱・合掌と異なります。台石の側面には墓主36人の名が陰刻されています。

◆縁部墓誌は、貰文13年(1673)10月に常縁上人を導師、富蔵禅英53人を願主として、施概面の生前供養のために建立されました。概高126cmの石造で、笠と火袋を失い、台石は後で付けられました。平は上部にくびれをもち、裏面に長衣姿の立像が彫られています。

52 区 石神井城跡
区 三宝寺池沼沢植物群落
D-5 石神井台1丁目 都立石神井公園

◆大正8年(1919)東京都の旧跡に指定された「石神井城跡及び三宝寺池」は、平成23年3月に「石神井城跡」として史跡に変更されました。池と石神井川の谷との台地上に中世豊島氏の築点であった石神井城跡があります。文明9年(1477)太田道灌に攻め落とされ廃城となりましたが、主郭の土塁と空堀の跡が残っています。

◆三宝寺池沼沢植物群落は、昭和10年(1935)国の天然記念物に指定されました。三宝寺池は武蔵野台地の代表的な湧水池でした。広さは約2.4ha、水深は平均2m です。指定当時は、シャクジイタヌキモ、カキツバタ、ミツガシワ、コウホネ、ヒツジグサなどの水の生い茂る所に生育する水生植物が繁茂していました。その後、周辺地域の都市化に伴い、昭和40年代には湧水が枯渇し、絶滅が危惧されました。

◆三宝寺池沼沢植物群落は、昭和10年(1935)国の天然記念物に指定されました。三宝寺池は武蔵野台地の代表的な湧水池でした。広さは約2.4ha、水深は平均2m です。指定当時は、シャクジイタヌキモ、カキツバタ、ミツガシワ、コウホネ、ヒツジグサなどの水の生い茂る所に生育する水生植物が繁茂していました。その後、周辺地域の都市化に伴い、昭和40年代には湧水が枯渇し、絶滅が危惧されました。

53 区 三宝寺の梵鐘
三宝寺山門
永享八年の夜念仏板碑
D-5 石神井台1-15 三宝寺

◆梵鐘は、延宝3年(1675)に概名伊予守盛房の前概によって制作されました。概高164.4cm、口径85.8cmの銅製で、鐘概に掛けられています。

◆山門は、一間一戸、四脚門、切妻造、銅板葺きで、天井は格天井です。「扁額(概門)」も存在し、江戸時代に三代将軍の徳川家光が書写で古概にならったと伝えられています。現在の門は文政10年(1827)の建概で、概門は昭和28年(1953)に修復されています。全体的に重厚で、細部装飾や彫刻に江戸時代後期の特徴を示しています。

◆板碑は永享8年(1436)に夜念仏供養に開かり造立されました。緑泥片岩製で、高さ126cmです。上下二つに折れていますが、その他に欠損部分はほとんど必ずありません。国内に残る夜念仏板碑のなかで最古の紀年銘が記されています。

※見学は受付でお申し出ください。

54 区 氷川神社の水盤
区 豊島氏奉納の石造籠
D-5 石神井台1-18 氷川神社

◆水盤は、享保12年(1727)の銘がある区内の神社に残る最古の水盤です。概1.08cm、奥行59cm、高さ62cmの石造で、正面に「石神井領 鎮守社 御手水鉢」と陰刻されています。

◆石造籠は左右一対で、総高154cm。向かって右側のものは火袋をもっていますが、半に「元禄十二己卯歳(1699)二月吉日」「石神井郷 願主豊嶋七兵衛 敬宇泰義」の銘が刻まれます。向かって左側は破損により願主銘文が欠落していますが、泰盈の子孫筒の寄進と伝えられています。

55 区 田柄用水跡
C-5 石神井台8-21

明治4年(1871)に田柄、上保谷、関、上・下石神井、谷原、田中、下土支田、上・下練馬の10か村への灌漑を目的に開さくした用水で、玉川上水から分かれる田無用水から西東京市田無町で分水し、富士街道に沿い、石神井町付近で北上して田柄川の流路に合流し、石神井川へと流れていました。昭和30年代には通水が止まり、暗渠や埋め立てが進んだため、現在その姿を部ごとができるのは「けやき部しの森」内に残る約47mのみです。上幅約4m、素掘りの用水概で、当時築けられた石積も残り、地域の水田開発に重要な役割を果たした用水の姿を今に伝えています。

56 区 上石神井立野の廣申塔
出羽三山・百八十八ヶ所観音供養塔
D-6 上石神井1-11

◆廣申塔は、宝永元年(1704)に上石神井立野村の組衆33人により建立された制廣申塔のひとつで、正面には青面金剛立像と三猿像が浮彫りされます。かつて多くみられた出羽の江戸在する廣申塔の多様性を示す概要な資料です。

◆供養塔は、天保13年(1842)に建立された、正面には出羽三山(湯殿山・月山・羽黒山)と伊豆・箱根・秩父の百八十ヶ所観音の文字が刻まれます。区内には数少ない出羽三山信仰に関わるものです。

57 区 丸彫青面金剛廣申塔
D-5 下石神井5-7

享保12年(1727)6月、小川八兵衛を願主として下石神井村の講中34人によって建てられた廣申塔です。高さ約150cmの石造で、丸彫の青面金剛立像の台座には邪鬼と三猿が浮彫りされており、丸彫像と一石です。像は中央で二つに折損したため、補修されています。

58 区 二十三夜待供養塔
E-5 下石神井6-1 天祖神社

文化13年(1816)に下石神井村の二十三夜講により建立された供養塔です。石造で、高さ117cm、角柱の幅35cm、奥行20cm、正面上部に勝至菩薩像が浮彫りされ、台石には願主、世話人名ほか講中23人の名が陰刻されています。

59 区 牧野記念庭園
(牧野富太郎宅跡)
C-4 東大泉6-34 牧野記念庭園

著名な植物学者牧野富太郎(1862~1957)が、大正15年(1926)から昭和32年(1957)に死去するまで約30年間住んだ居宅跡です。昭和33年(1958)に区立公園となりました。園内には牧野が発見、命名したスエコザサをはじめ、ヘラノキ、サクラ「仙台屋」など300種以上の植物が生育しています。記念館には植物標本、書籍、顕微鏡などが展示され、書籍は書籍展示室内に保存、公開されています。

※休園日:火曜日(祝日のときは開園し、その翌平日が休園)、12月29日~1月3日

60 区 井頭のヤナギ
B-4 東大泉7-34 大泉井頭公園

白子川上流域の湧水水による井頭池の水辺に生育した2株のマルバヤナギです。マルバヤナギは低地の川岸や池沼岸、放棄水田などの多湿地に多く成育し、水辺植物としての特徴があります。南側は高さ8.8m、北側は高さ6.2mで、区内では大きい部類のヤナギです。